

眼振の検査 (電気生理学的検査を使用しない方法)



目的

眼振の簡単な診断

準備物 固視目標

眼振があるか？



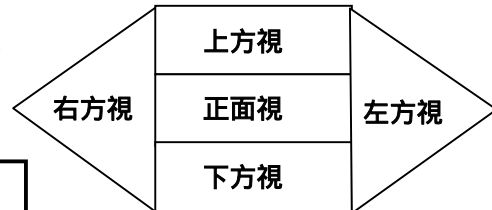
患者さん側の方向。

記載例)

なし(○)か？ 疑わしい(⊗)か？ 左へ疑わしい(⊗→)か？ 下に疑わしい(⊗)など

例) 眼振だ！

例) 記載方法



眼振の方向は

- ・同じ(振り子様眼振: pendular nystagmus ↔)か？
- ・どちらかが速い(律衝動性眼振: jerky nystagmus →)か？



速い方の動き(急速相)が眼振の向きだよ！

めまいを伴う場合矢印を ⊕ で囲む。 ⊕

例) 左向きが急速相だった！ →

正面位での眼振の種類は

- ・水平性(→)か？
- ・垂直性(↑)か？
- ・回旋性(↻)か？
- ・斜行(↗)か？
- ・混合(↻→)か？
- ・混在性(↑↻)か？

例) 水平性だった！ →



これは水平回旋性 2方向以上の眼振方向を持つ

例) 狭かった！ →

往復する範囲(振幅)は

- なし (○)か？
- 小打性: 狭い(→)か？
- 中打性: 中位(⇒)か？
- 大打性: 広い(≡)か？



臨床では視診が多いが、詳しく言えば、1回の眼振で移動する偏位角を矢印の数で記載する。
1mm 又は 5° 以下
1~3mm 又は 5~15°
3mm 又は 15° 以上

単位時間当たりの眼振打数。
毎分 4(5)0 以下
毎分 4(5)0 ~ 100
毎分 100 以上

振動の数(頻度)が

- 小頻打性: 少ない(→)又は(→)か？
- 中頻打性: 中位(⇒)又は(⇒)か？
- 頻打性: 多い(≡)又は(≡)か？

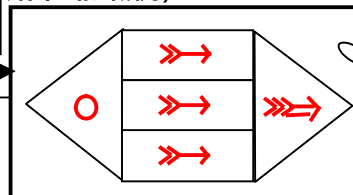
例) 中程度だった！ ≡→

側方視の角度は調べても決まった記載がなく、多分ヘスから考えても 15° ~ 30° でしょう。

側方視・上下方視でも同様に眼球の動きを観察し記載する

例) 右方視でほぼ止まり、上下方向では差はないが、左方視で振幅頻度が増した！

結果・記載例)



左右眼で所見が異なる場合別々に記載すること。

NO 方向による眼振に変化があるか？ YES

眼位性眼振でない

眼位性眼振

どの角度で眼振が消失(null point)又は減弱(neutral zone)するかを再確認する

NO 輻湊時や注視時に眼球の動きが変化するか？ YES

例) 輻湊時変化なし
注視時減少

輻湊時減少
注視時増加

後天性眼振が多い

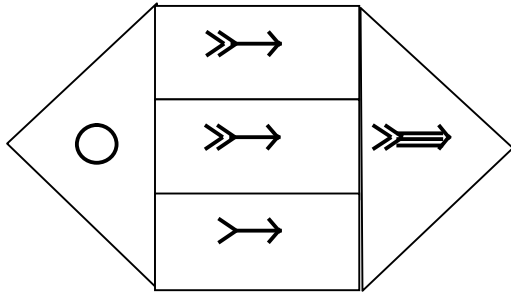
先天性眼振が多い

NO 一眼を遮閉した時に眼振が増大するか？ YES

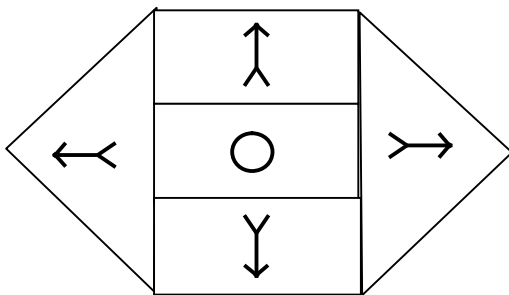
潜伏眼振でない

潜伏眼振

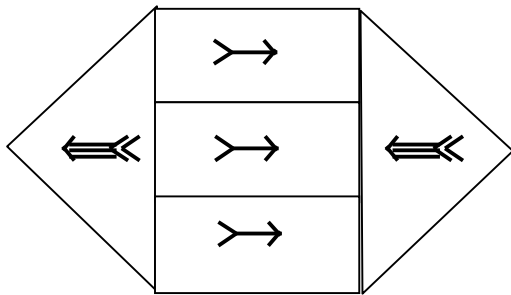
結果例色々



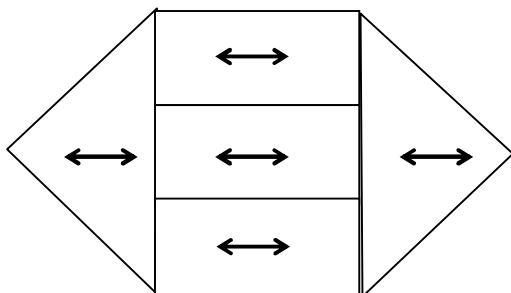
眼振の向きは？	左向き
眼振の種類は？	律動性(衝動性)
静止位は？	右方視
Alexanderの法則	有り



眼振の向きは？	注視向き(注視方向性眼振という)
眼振の種類は？	律動性(衝動性)
静止位は？	正面視
Alexanderの法則	有り



眼振の向きは？	側方:右向き 正面上下:左向き
眼振の種類は？	律動性(衝動性)
静止位は？	なし
Alexanderの法則	なし



眼振の向きは？	なし
眼振の種類は？	振子様
静止位は？	なし
Alexanderの法則	なし